



タイプC3	タイプB1	タイプB2	タイプA1	タイプC1	タイプC2															
タイプC3	タイプB1	タイプB2	タイプA1	タイプC1	タイプC2	タイプD3	タイプD4	タイプD1	タイプB3	タイプC2	タイプA1	タイプC5	タイプD2							
タイプC3	タイプB1	タイプB2	タイプA1	タイプC1	タイプC2	タイプD3	タイプD4	タイプD1	タイプB3	タイプC2	タイプA1	タイプC5	タイプD2							
タイプC3	タイプB1	タイプB2	タイプA1	タイプC1	タイプC2	タイプD3	タイプD4	タイプD1	タイプB3	タイプC2	タイプA1	タイプC5	タイプD2	タイプC1	タイプB2	タイプB1	タイプB1	タイプC2		
タイプC3	タイプB1	タイプB2	タイプA1	タイプC1	タイプC2	タイプD3	タイプD4	タイプD1	タイプB3	タイプC2	タイプA1	タイプC5	タイプD2	タイプC1	タイプB2	タイプB1	タイプB1	タイプC2		
タイプC3	タイプB1	タイプB2	タイプA1	タイプC1	タイプC2	タイプD3	タイプD4	タイプD1	タイプB3	タイプC2	タイプA1	タイプC5	タイプD2	タイプC1	タイプB2	タイプB1	タイプB1	タイプC2		
タイプC3	タイプB1	タイプB2	タイプA1	タイプC1	タイプC2	タイプD3	タイプD4	タイプD1	タイプB3	タイプC2	タイプA1	タイプC5	タイプD2	タイプC1	タイプB2	タイプB1	タイプB1	タイプC2		
タイプC3	タイプB1	タイプB2	タイプA1	タイプC1	タイプC2	タイプD3	タイプD4	タイプD1	タイプB3	タイプC2	タイプA1	タイプC5	タイプD2	タイプC1	タイプB2	タイプB1	タイプB1	タイプC2		
タイプC3	タイプB1	タイプB2	タイプA1	タイプC1	タイプC2	タイプD3	タイプD4	タイプD1	タイプB3	タイプC2	タイプA1	タイプC5	タイプD2	タイプC1	タイプB2	タイプB1	タイプB1	タイプC2		
タイプC3	タイプB1	タイプB2	タイプA1	タイプC1	タイプC2	タイプD3	タイプD4	タイプD1	タイプB3	タイプC2	タイプA1	タイプC5	タイプD2	タイプC1	タイプB2	タイプB1	タイプB1	タイプC2		
ビット						ビット		ビット						ビット						

タイプD1	タイプC6	タイプC7	タイプD1	タイプA3	タイプC1	タイプB4	タイプC1	タイプB2	タイプC4
タイプD1	タイプC6	タイプC7	タイプD1	タイプA3	タイプC1	タイプB4	タイプC1	タイプB2	タイプC4
タイプD1	タイプC6	タイプC7	タイプD1	タイプA3	タイプC1	タイプB4	タイプC1	タイプB2	タイプC4
タイプD1	タイプC6	タイプC7	タイプD1	タイプA3	タイプC1	タイプB4	タイプC1	タイプB2	タイプC4
タイプD1	タイプC6	タイプC7	タイプD1	タイプA3	タイプC1	タイプB4	タイプC1	タイプB2	タイプC4
タイプD1	タイプC6	タイプC7	タイプD1		タイプC1	タイプB4	タイプC1	タイプB2	タイプC4
タイプD1	タイプC6	タイプC7	タイプD1	貫通通路	タイプC1	タイプB4	タイプC1	タイプB2	タイプC4
キュービクル置き場	堀車庫	堀車庫	堀車庫		堀車庫	堀車庫	堀車庫	堀車庫	堀車庫

1-1号棟  
70戸

1-2号棟  
住戸：71戸 集会室：1戸

2号棟  
住戸：49戸 堀車庫：9台 キュービクル置き場

■断熱材仕様

部位	断熱材	熱伝導率 [W/(m・k)]	材厚 [m]	凡例	備考
屋根(非歩行)	[外断熱] 硬質ウレタンフォーム断熱材 2種1号	0.023	50		
外壁・柱・梁	[内断熱] 吹付け硬質ウレタンフォーム A種1H	0.026	50		
	[内断熱] 吹付け硬質ウレタンフォーム A種1H	0.026	50		
床	[内断熱] ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 2号	0.036	40	図示省略	和室畳部
	[内断熱] ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 2号	0.036	80	図示省略	一般床部 和室板の間部
	[外断熱] フェノールフォーム断熱材 1種2号CH	0.020	50		打込
界床(ビット)	[内断熱] 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種bA	0.028	25		敷込
土間床	[内断熱] 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種bA	0.028	25	図示省略	
【熱橋部断熱補強】			(補強長さ)		
屋根スラブ(下)	[内断熱] 吹付け硬質ウレタンフォーム A種1H	0.026	25   L=450	図示省略	
ハト小屋スラブ(下)	[内断熱] 吹付け硬質ウレタンフォーム A種1H	0.026	25   L=450	図示省略	
屋根基礎欠損部(下)	[内断熱] フェノールフォーム断熱材 1種2号CH	0.020	25   L=450	図示省略	内貼り
床スラブ(上)	[内断熱] 吹付け硬質ウレタンフォーム A種1H	0.026	25   L=450	図示省略	玄関部分を除く
床スラブ(下)	[内断熱] 吹付け硬質ウレタンフォーム A種1H	0.026	25   L=450	図示省略	
戸境壁	[内断熱] 吹付け硬質ウレタンフォーム A種1H	0.026	25   L=450	図示省略	
戸境壁・梁	[内断熱] 吹付け硬質ウレタンフォーム A種1H	0.026	25   L=200	図示省略	集会室上部2階スラブ下

■開口部仕様

部位	建具種類	建具及びガラスの仕様	熱貫流率 [W/(㎡・k)]	備考
窓	一重窓	アルミ樹脂複合サッシ (エピソードNEO)		日射遮蔽型
		Low-E複層ガラス Low-E4 + A12 + FL4	2.91	バルコニー側(1-6F)※寸法は住戸平面参照
		Low-E複層ガラス Low-E5 + A12 + FL5	2.91	バルコニー側(7-9F)※寸法は住戸平面参照
		Low-E複層ガラス Low-E4 + A11 + FL4	2.91	妻側(1-9F)※寸法は住戸平面参照
		Low-E複層ガラス Low-E4 + A11 + PW6.8	3.49	共用廊下(1-9F)※寸法は住戸平面参照
玄関ドア	ドア	金属製ハニカムフラッシュ構造の戸(ドア内ガラス無し・ポスト無し)	3.00	

設備仕様の一覧

暖房設備			(備考)
暖房機種	主たる居室	設置しない(居住者設置)	
	その他の居室	設置しない(居住者設置)	
冷房設備			(備考)
冷房機種	主たる居室	設置しない(居住者設置)	
	その他の居室	設置しない(居住者設置)	
換気			(備考)
換気方式	ダクト式第二種またはダクト式第三種換気設備 □径の太いダクトを使用(75mm以上) ■DCモーターの採用		三菱電機 VD-15ZFVC6(浴室) 風量 140m <sup>3</sup> /h以下 静圧 82Pa 風量 70m <sup>3</sup> /h以下(24時間) 静圧 21Pa(24時間)
給湯設備			(備考)
給湯設備・浴室等の有無	給湯設備がある(浴室等がある)		
熱源機	給湯専用型	*効率(給湯部): 91.0%(モード熱効率)	リンナイ RUX-E1616W
配管	□給湯単機能 ■ふろ給湯器(追焚なし) □ふろ給湯器(追焚あり)		
	□先分岐方式 ■ヘッダー方式(■13A以下 □13Aより大きい)		
水栓	台所	2バルブ水栓以外 □節湯A1(手元止水) ■節湯C1(水優先吐水)	
	浴室シャワー	2バルブ水栓以外 □節湯A1(手元止水) ■節湯B1(水流量吐水)	
	洗面	2バルブ水栓以外 ■節湯C1(水優先吐水)	
浴槽	□高断熱浴槽を使用		
照明設備			(備考)
照明	主たる居室	すべての機器においてLEDを使用している □多灯分散照明方式の採用 □調光が可能な制御の採用	居住者設置
	その他の居室	設置しない(居住者設置)	
	非居室	すべての機器においてLEDを使用している □人感センサーの採用	消費電力 7.3W 一住戸につき4箇所

※実施設計時は集会室を含め、市営住宅標準設計仕様別表第2の最新版の基準によること。

※特に厳しい条件となる9戸を基準として計算

Main table listing apartment types (e.g., タイプC3, タイプB1) and their corresponding energy efficiency metrics across various units.

1-1号棟 住戸：70戸

1-2号棟 住戸：71戸 集会室：1室

2号棟 住戸：49戸

住戸の一次エネルギー消費量 計算結果一覧

Table for Unit 1 showing energy consumption metrics (床面積, 外皮性能, 一次エネルギー消費量) for various apartment types.

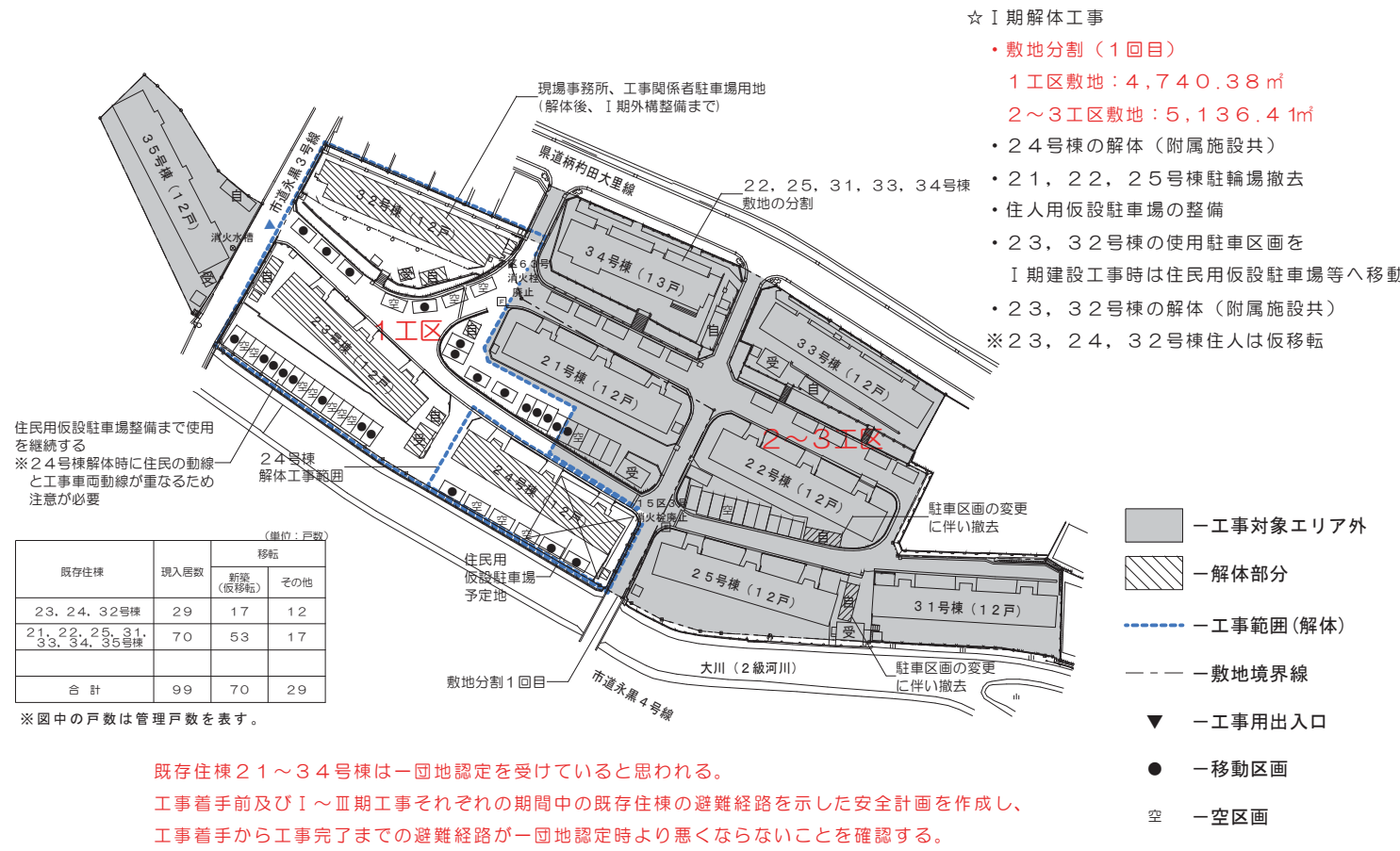
住戸の一次エネルギー消費量 計算結果一覧

Table for Unit 2 showing energy consumption metrics for various apartment types.

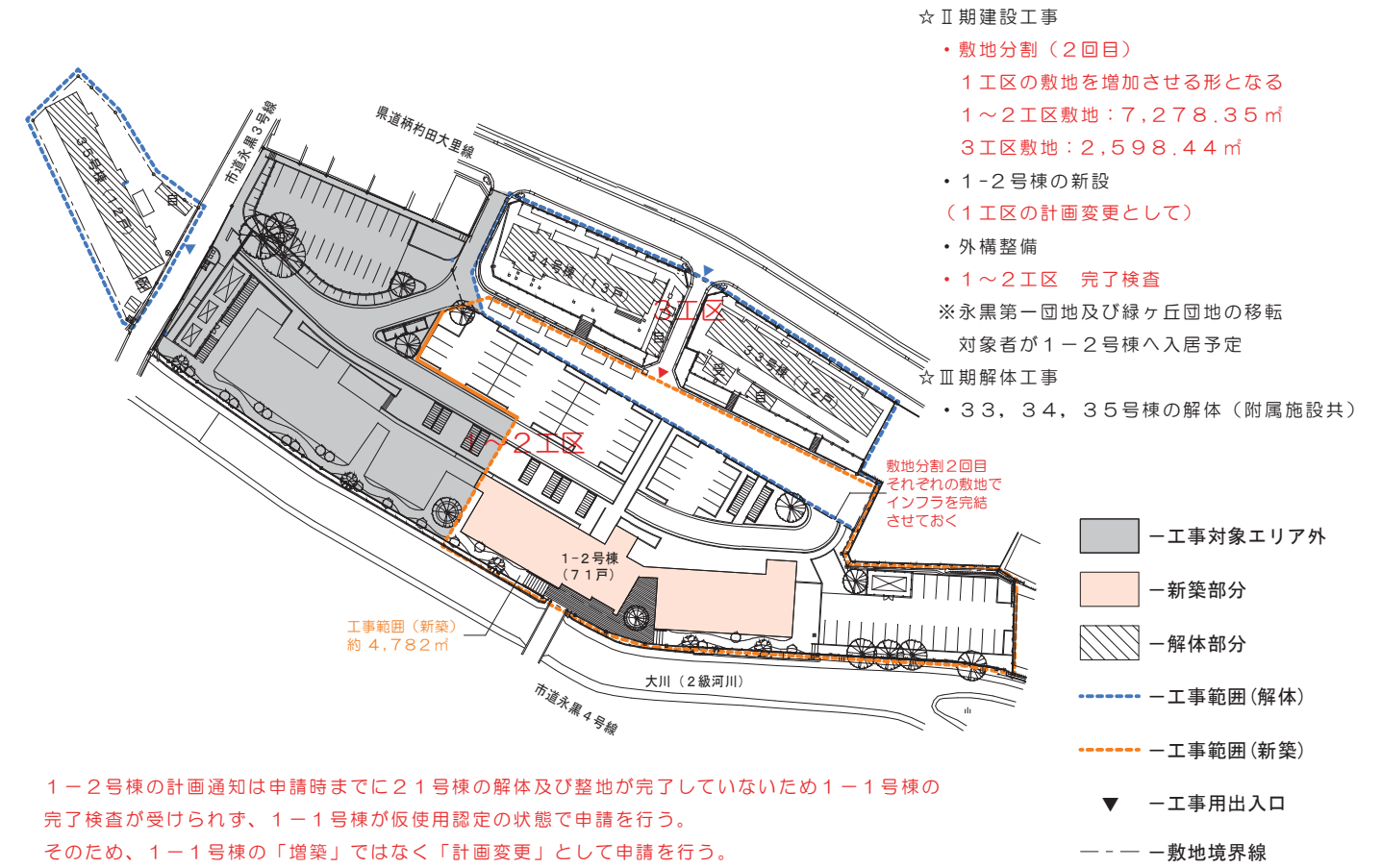
※R4年1月施行「隣戸間温度差係数0」を使用して計算。



① I 期解体工事



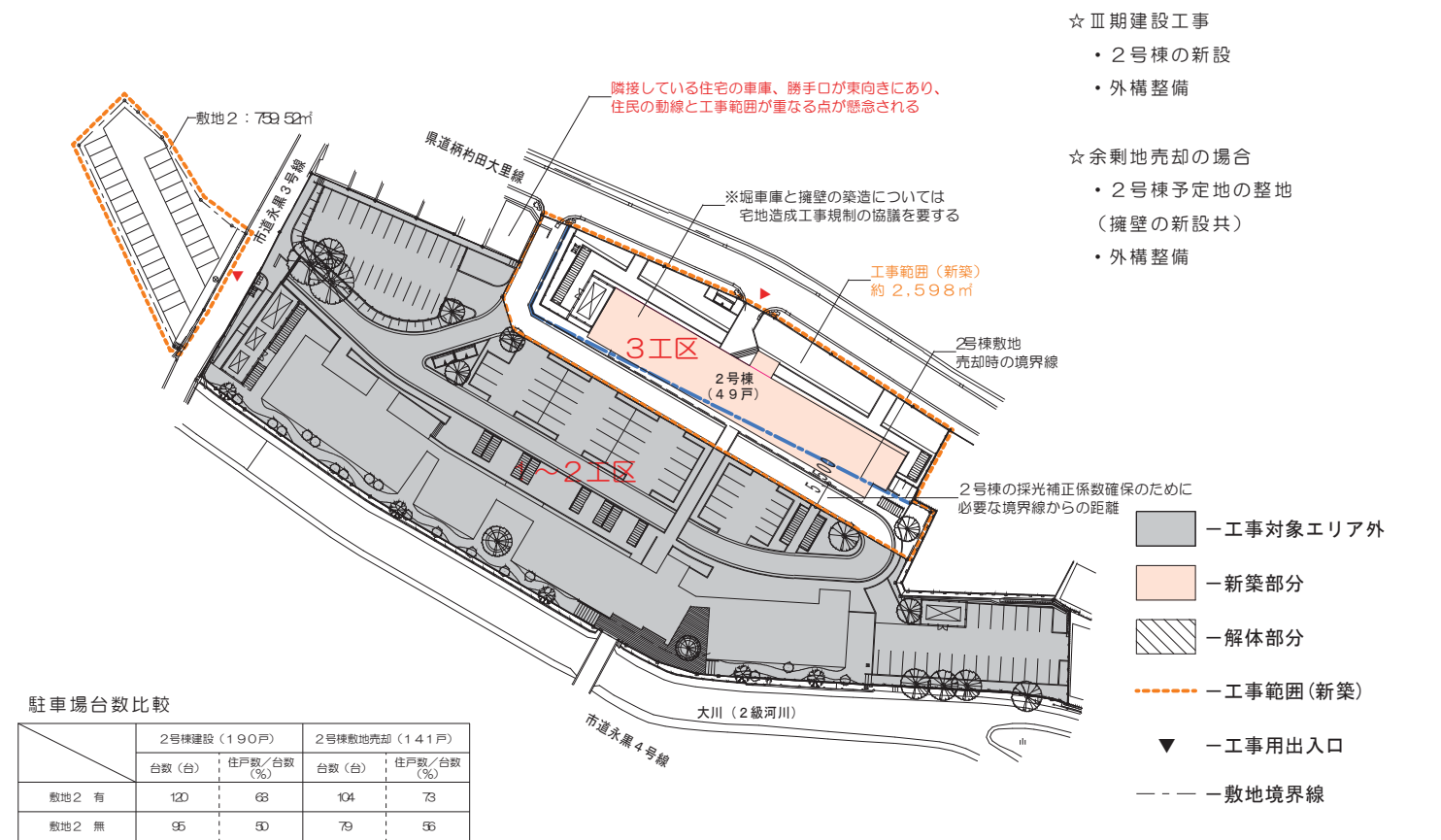
③ II 期建設工事・III 期解体工事



② I 期建設工事・II 期解体工事



④ III 期建設工事



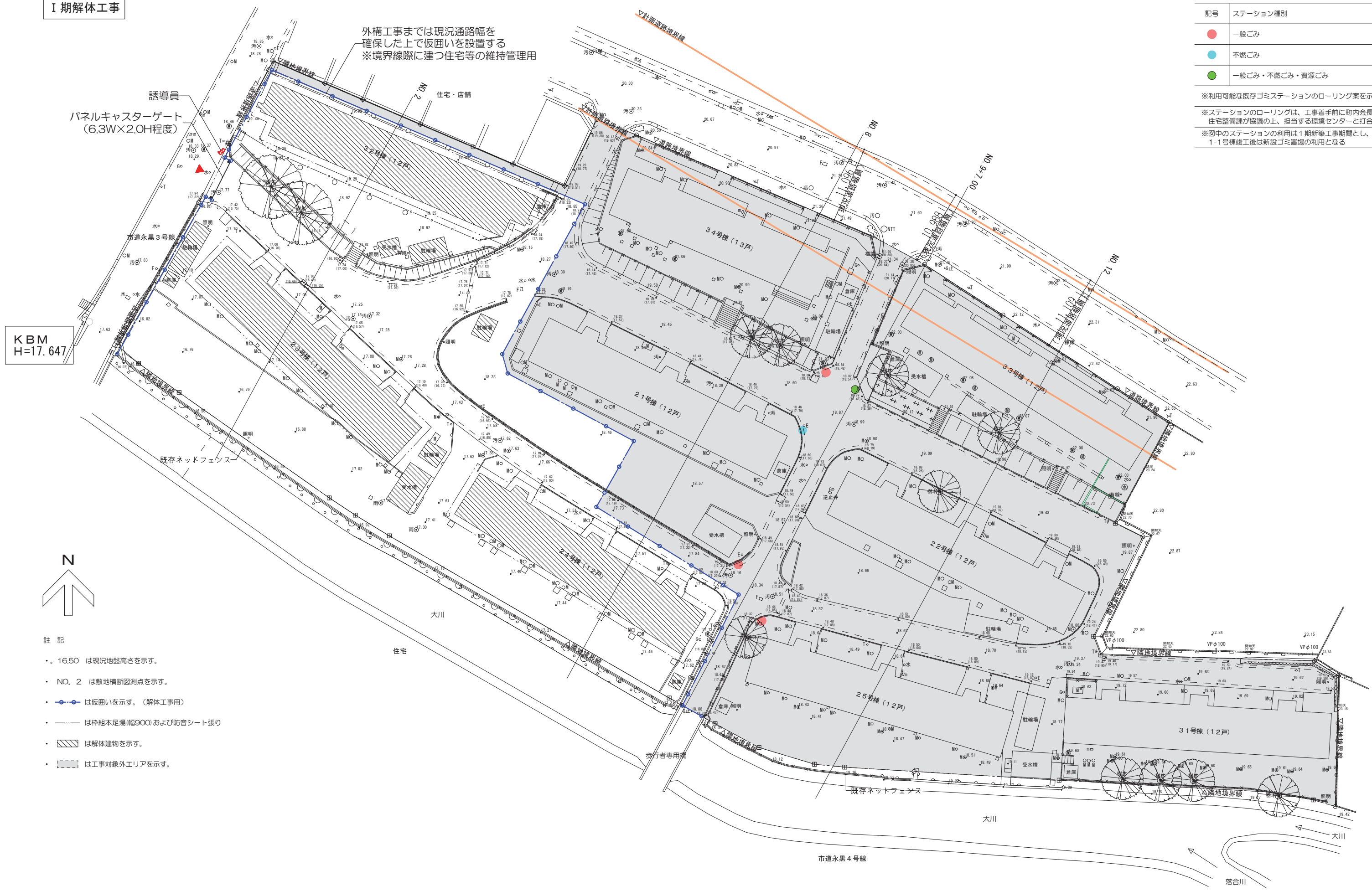


I 期解体工事

外構工事までは現況通路幅を確保した上で仮囲いを設置する  
※境界線際に建つ住宅等の維持管理用

記号	ステーション種別
●	一般ごみ
●	不燃ごみ
●	一般ごみ・不燃ごみ・資源ごみ

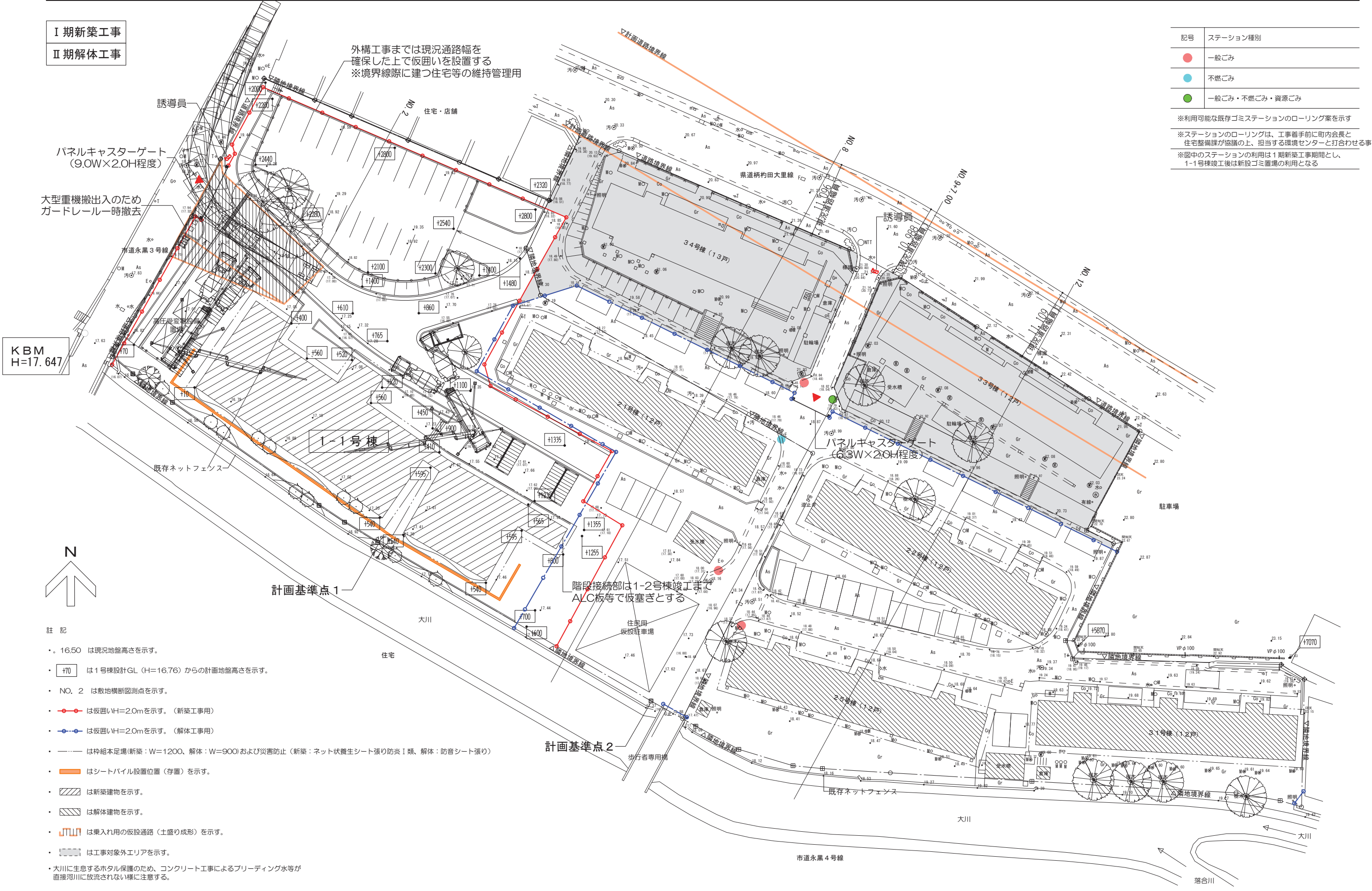
※利用可能な既存ゴミステーションのローリング案を示す  
※ステーションのローリングは、工事着手前に町内会長と住宅整備課が協議の上、担当する環境センターと打合わせる事  
※図中のステーションの利用は1期新築工事期間とし、1-1号棟竣工後は新設ゴミ置場の利用となる



- 註記
- ・ 16.50 は現況地盤高さを示す。
  - ・ NO. 2 は敷地横断測点を示す。
  - ・ 〓 〓 は仮囲いを示す。(解体工事前)
  - ・ - - - は枠組本足場(幅900)および防音シート張り
  - ・ ▨ ▨ は解体建物を示す。
  - ・ ▨ ▨ は工事対象外エリアを示す。



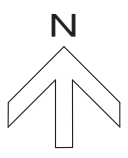
I 期新築工事  
II 期解体工事



記号	ステーション種別
● (Red)	一般ごみ
● (Blue)	不燃ごみ
● (Green)	一般ごみ・不燃ごみ・資源ごみ

※利用可能な既存ゴミステーションのローリング案を示す  
 ※ステーションのローリングは、工事着手前に町内会長と住宅整備課が協議の上、担当する環境センターと打合わせる事  
 ※図中のステーションの利用は1期新築工事期間とし、1-1号棟竣工後は新設ゴミ置場の利用となる

KBM  
H=17.647



- 註記
- ・ 16.50 は現況地盤高さを示す。
  - ・ 70 は1号棟設計GL (H=16.76) からの計画地盤高さを示す。
  - ・ NO. 2 は敷地横断面測点を示す。
  - ・ ● (Red) は仮囲いH=2.0mを示す。(新築工用)
  - ・ ● (Blue) は仮囲いH=2.0mを示す。(解体工用)
  - ・ --- は枠組本足場(新築: W=1200、解体: W=900)および災害防止(新築: ネット状養生シート張り防炎I類、解体: 防音シート張り)
  - ・ ■ (Orange) はシートパイル設置位置(存置)を示す。
  - ・ ■ (Hatched) は新築建物を示す。
  - ・ ■ (Hatched) は解体建物を示す。
  - ・ ■ (Dotted) は乗入れ用の仮設通路(土盛り成形)を示す。
  - ・ ■ (Dotted) は工事対象外エリアを示す。
  - ・ 大川に生息するホタル保護のため、コンクリート工事によるフリーティング水等が直接河川に放流されない様に注意する。



Ⅱ期新築工事  
Ⅲ期解体工事

大型重機等の搬出入用出入口

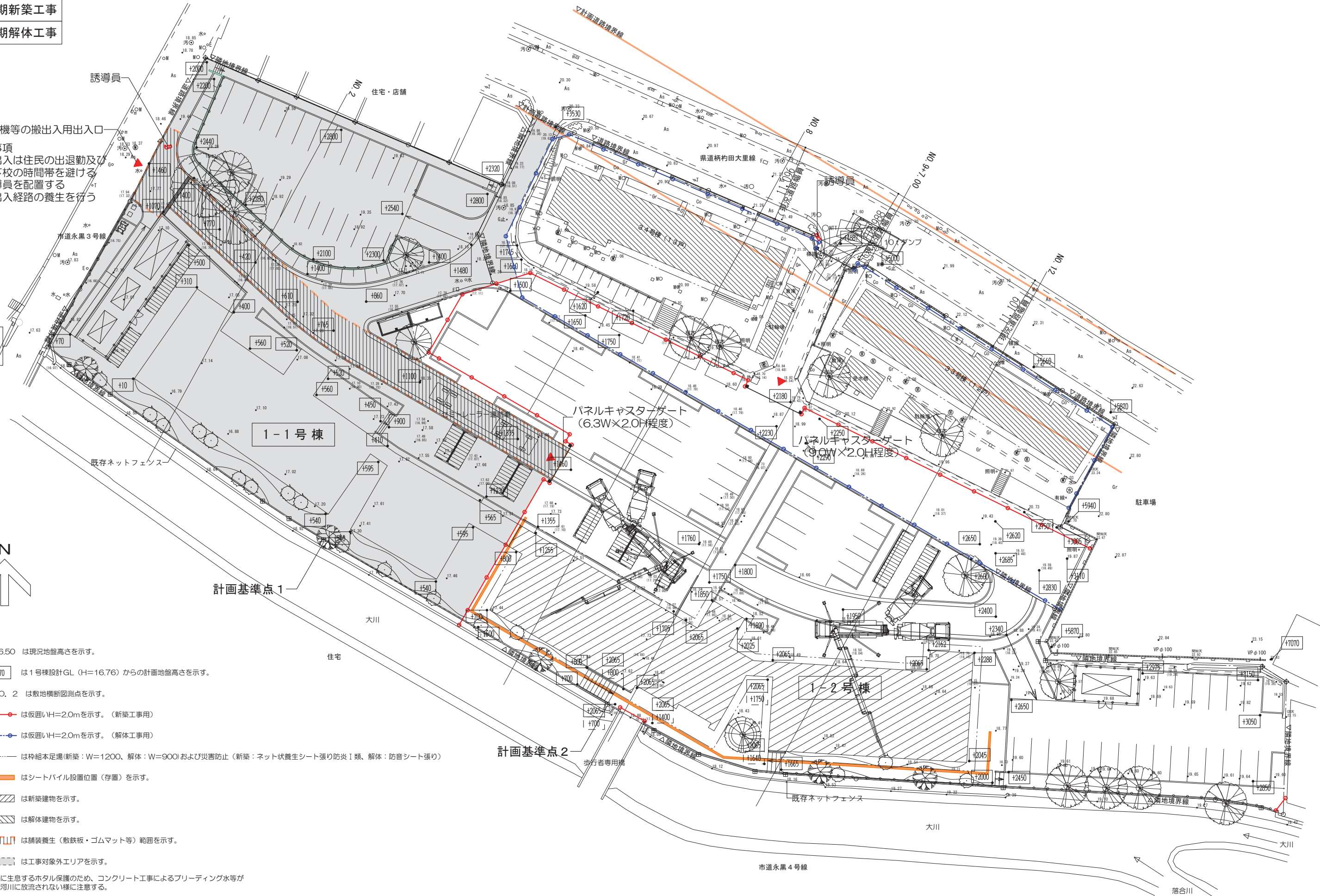
- 注意事項
- ・搬出入は住民の出退勤及び登下校の時間帯を避ける
  - ・誘導員を配置する
  - ・搬出入経路の養生を行う

KBM  
H=17.647



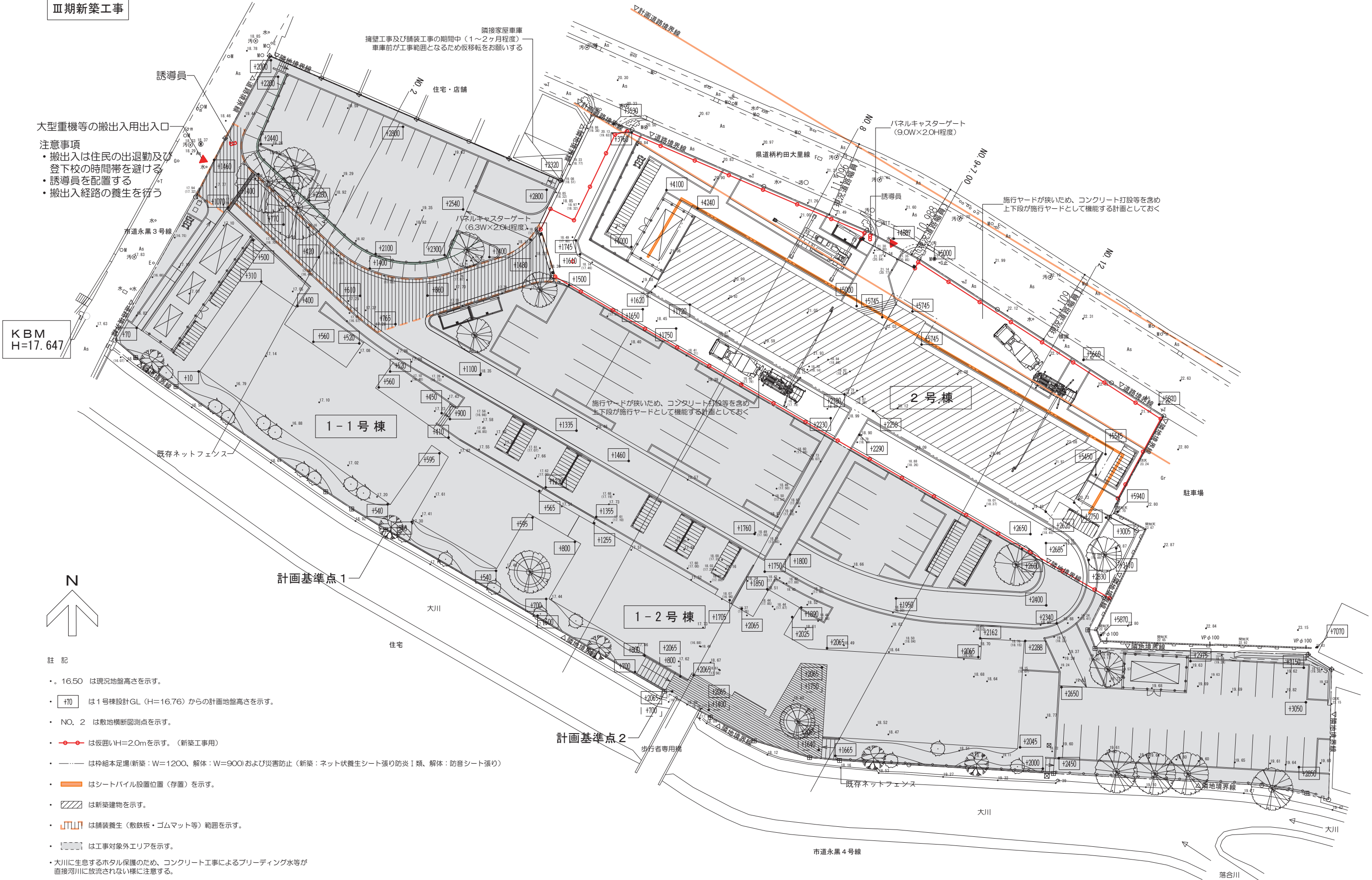
註記

- ・ 16.50 は現況地盤高さを示す。
- ・ [70] は1号棟設計GL (H=16.76) からの計画地盤高さを示す。
- ・ NO. 2 は敷地横断面測点を示す。
- ・ [赤線] は仮囲いH=2.0mを示す。(新築工用)
- ・ [青線] は仮囲いH=2.0mを示す。(解体工用)
- ・ [点線] は枠組本足場(新築: W=1200、解体: W=900)および災害防止(新築: ネット状養生シート張りの防災I類、解体: 防音シート張り)
- ・ [オレンジ線] はシートパイル設置位置(存置)を示す。
- ・ [斜線] は新築建物を示す。
- ・ [点線] は解体建物を示す。
- ・ [点線] は舗装養生(敷鉄板・ゴムマット等)範囲を示す。
- ・ [点線] は工事対象外エリアを示す。
- ・ 大川に生息するホタル保護のため、コンクリート工事によるフリーティング水等が直接河川に放流されない様に注意する。





Ⅲ期新築工事



大型重機等の搬出入用出入口

- 注意事項
- ・搬出入は住民の出退勤及び登下校の時間帯を避ける
  - ・誘導員を配置する
  - ・搬出入経路の養生を行う

KBM  
H=17.647

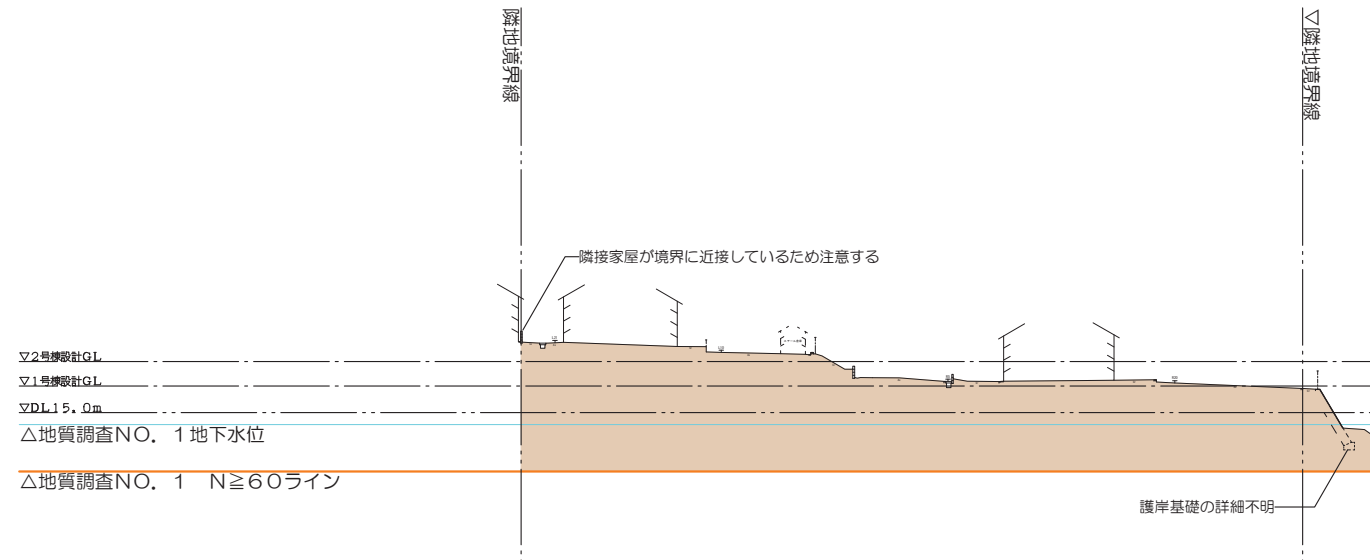


註記

- ・ 16.50 は現況地盤高さを示す。
- ・ 70 は1号棟設計GL (H=16.76) からの計画地盤高さを示す。
- ・ NO. 2 は敷地横断面測点を示す。
- ・ 仮囲いH=2.0mを示す。(新築工用)
- ・ 枠組本足場(新築: W=1200、解体: W=900)および災害防止(新築: ネット状養生シート張りの防災1類、解体: 防音シート張り)
- ・ シートパイル設置位置(存置)を示す。
- ・ 新築建築物を示す。
- ・ 舗装養生(敷鉄板・ゴムマット等)範囲を示す。
- ・ 工事対象外エリアを示す。
- ・ 大川に生息するホタル保護のため、コンクリート工事によるフリーティング水等が直接河川に放流されない様に注意する。

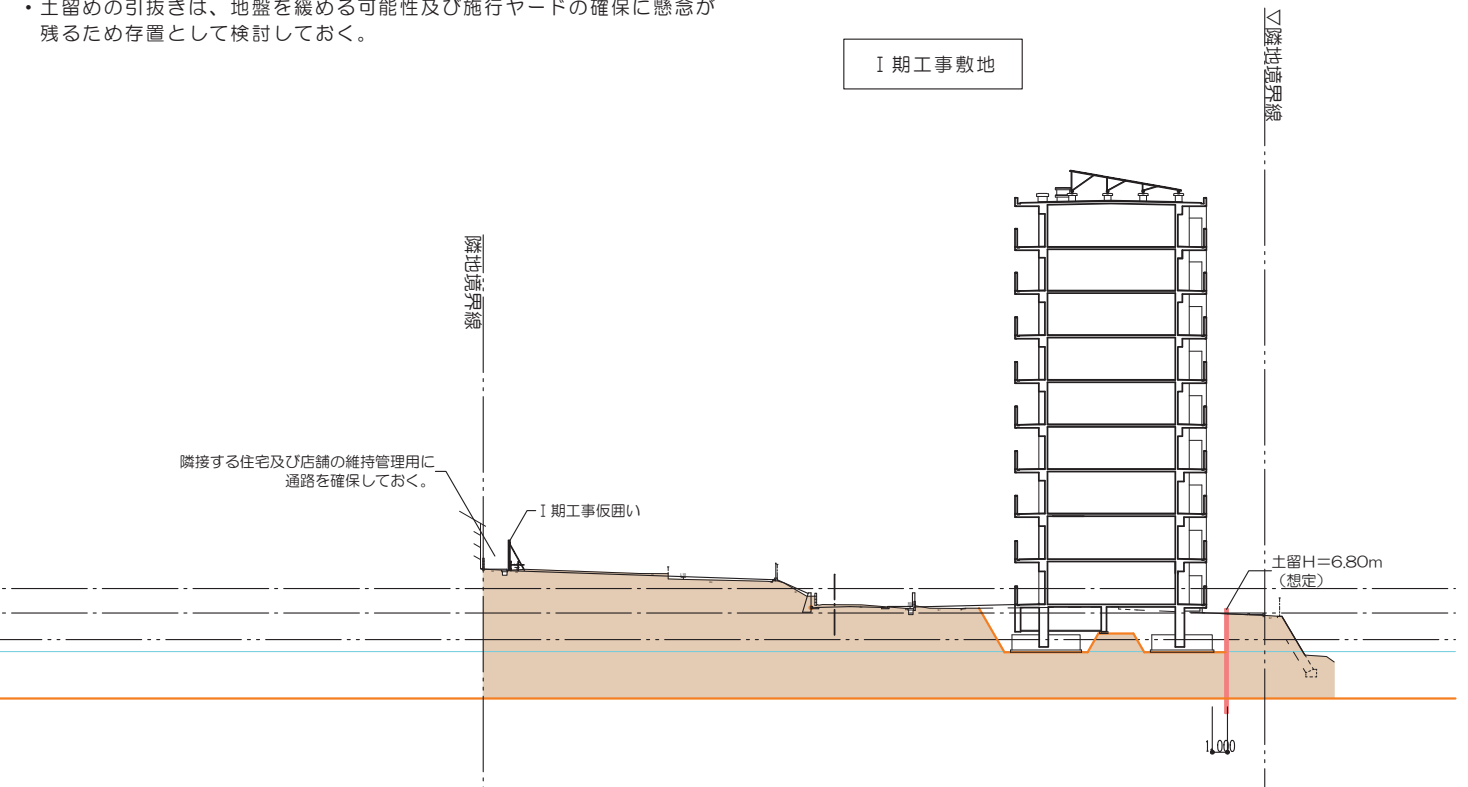


既存敷地横断面図



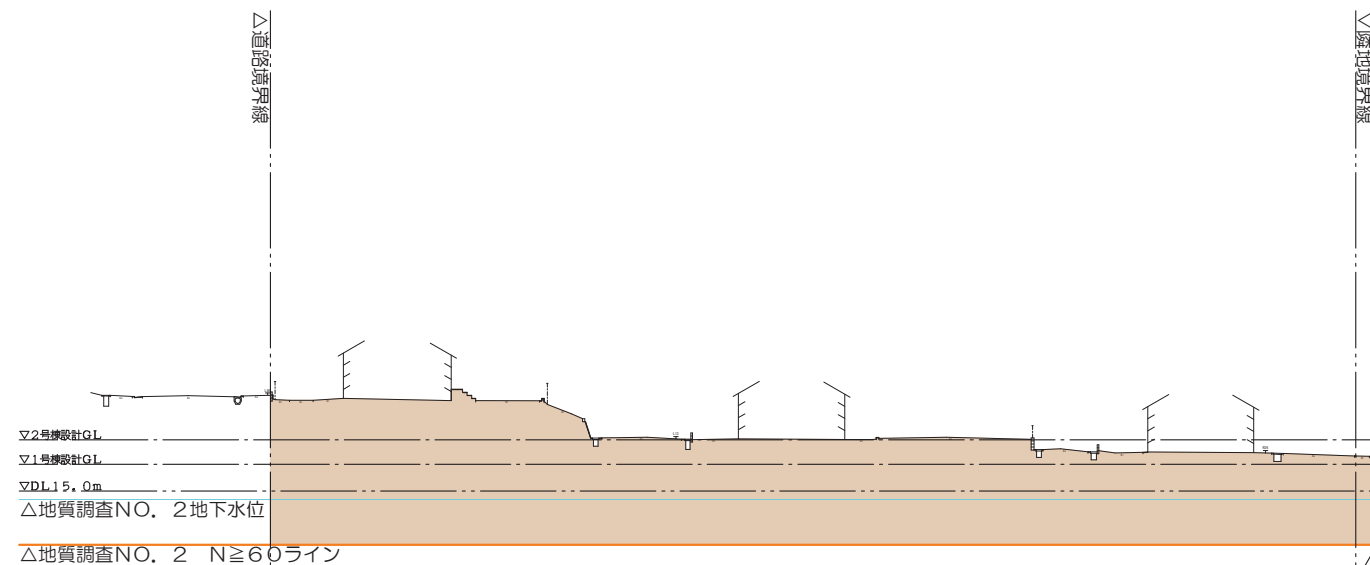
計画敷地横断面図

- ・護岸が古く脆弱な事が予想されるため、基礎の掘削は土留めを用いて行う。
- ・土留めは地下水位及び土質（逸水がほぼ100%）より、止水性を考慮した工法の選定とする。  
（※大川に生息するホタルへの影響にも配慮、汚濁水等の流出対策も兼ねる）
- ・詳細設計では、根入れ確保によるN ≥ 60の岩盤に対応する工法、または、切梁を用いた工法等により安全性の確保を検討する。
- ・土留めの引抜きは、地盤を緩める可能性及び施行ヤードの確保に懸念が残るため存置として検討しておく。



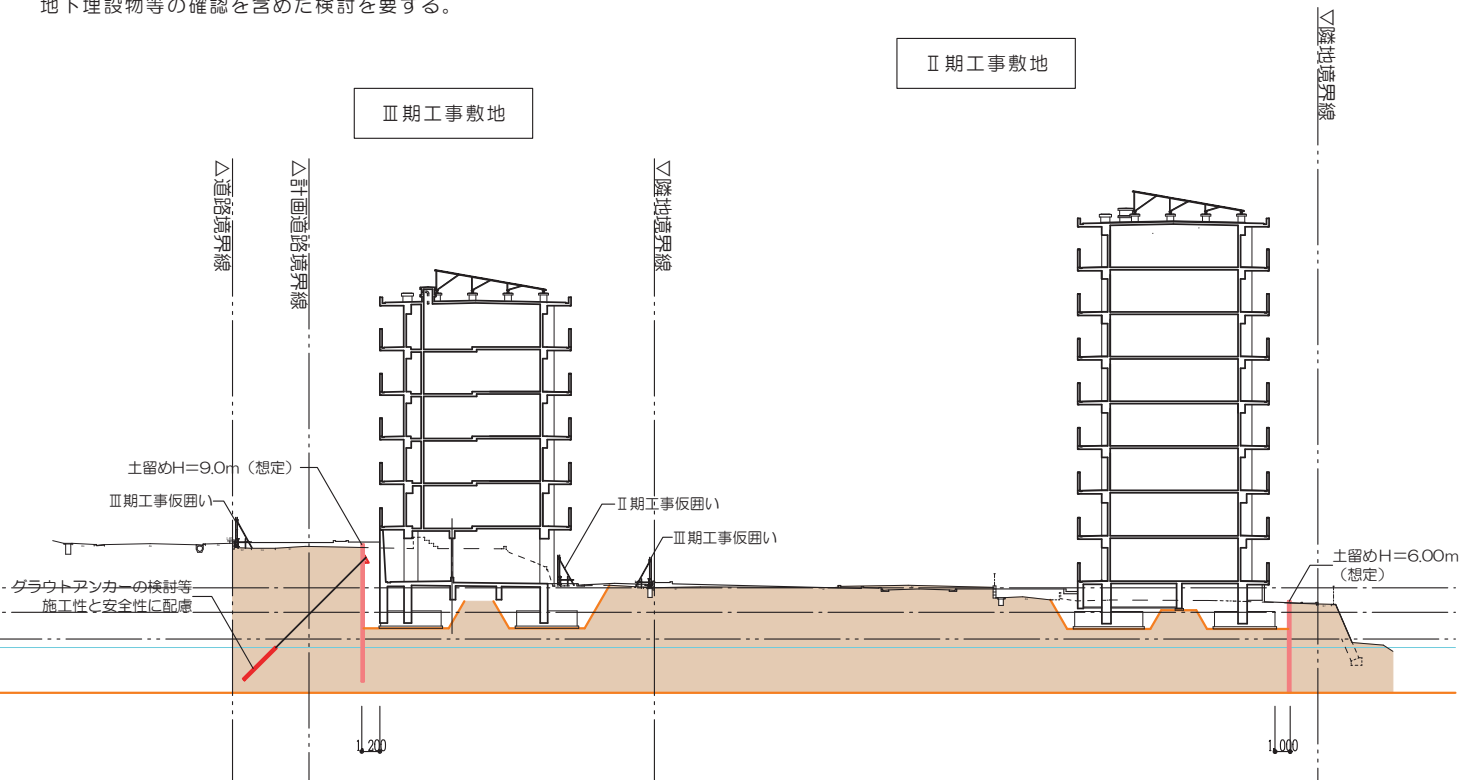
敷地横断面図測点 No. 2

既存敷地横断面図



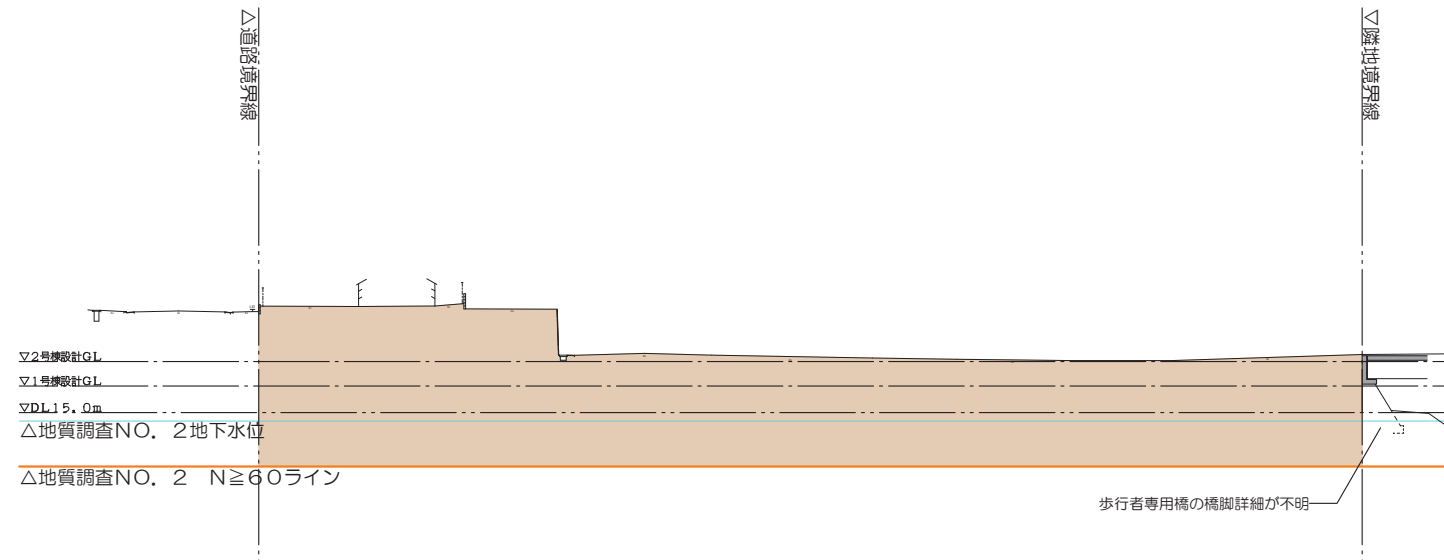
計画敷地横断面図

- ・Ⅲ期工事は敷地に高低差があるため、仮設計画には特に配慮が必要となる。
- ・硬質な土質により、土留めの適切な根入れが確保出来ない事が予想されるため、切梁を用いた土留め工法の採用が必要と思われる。
- ・詳細設計では、施工性に配慮してバックアンカー工法の採用も含めた検討が必要となる。
- ・バックアンカー工法とする場合、アンカー長さにより敷地外への定着となる可能性があるため、地下埋設物等の確認を含めた検討を要する。



敷地横断面図測点 No. 8

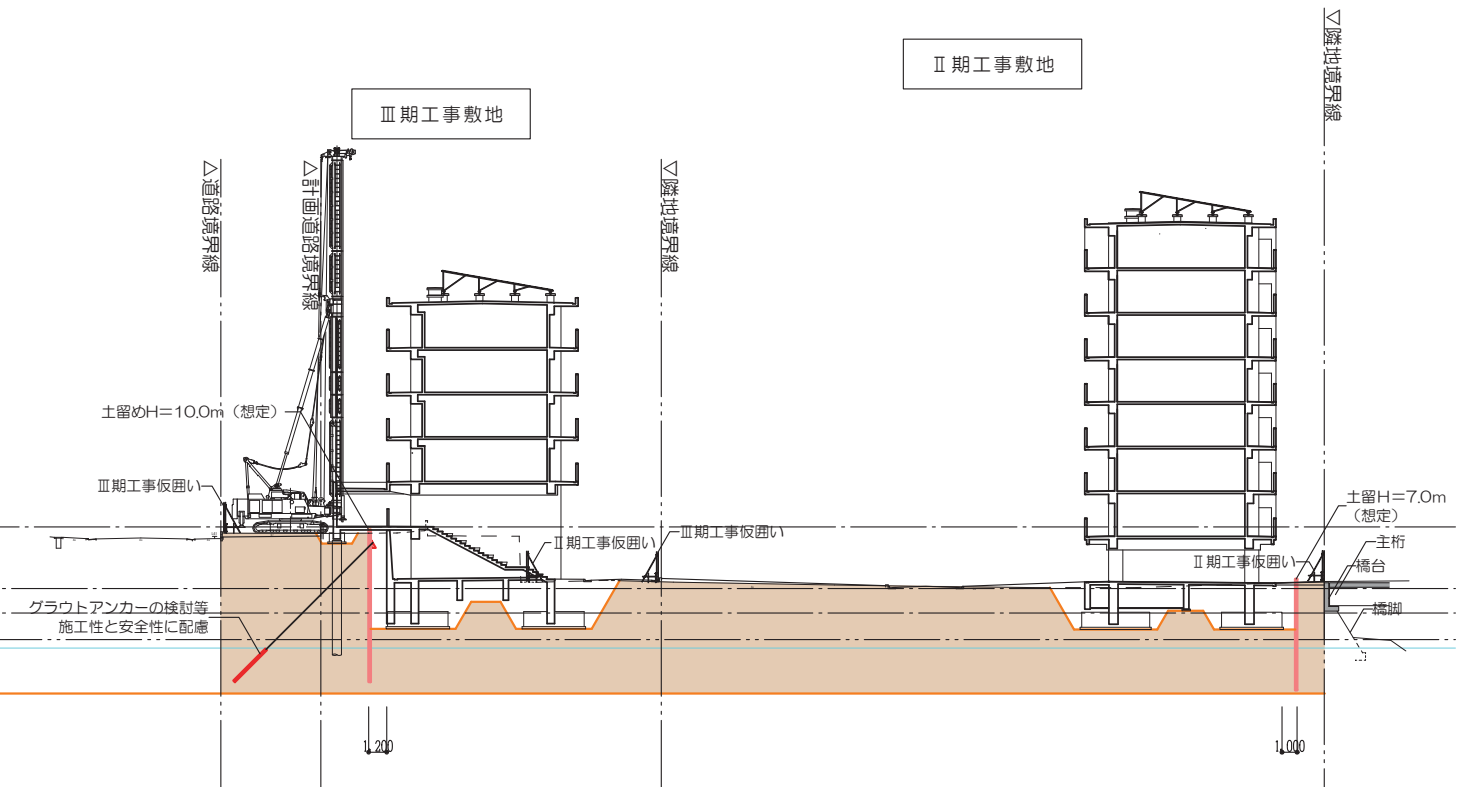
既存敷地横断面図



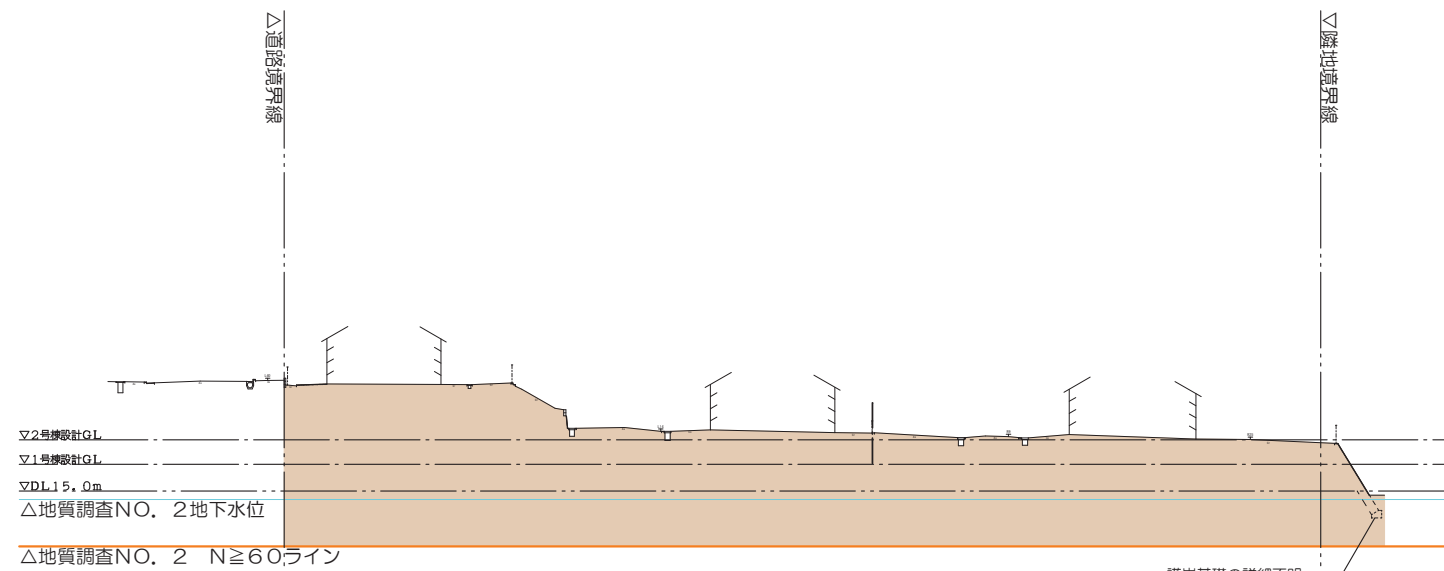
計画敷地横断面図

- ・Ⅲ期工事敷地は高低差かつ狭小地での工事となるため、施工計画には十分な検討を要する。
- ・当該敷地の地質調査が未実施のため、1-1号棟と同じく杭基礎として検討を行う。
- ・上段部の杭工事は施行ヤードが限られるため、杭打機の選定等に配慮する必要がある。
- ・歩行者専用橋に建物基礎が近接するため土留めを行う。
- ・上記土留めの設置位置は、現地状況を調査の上決定とする。

敷地横断面図測点 No. 9+7m



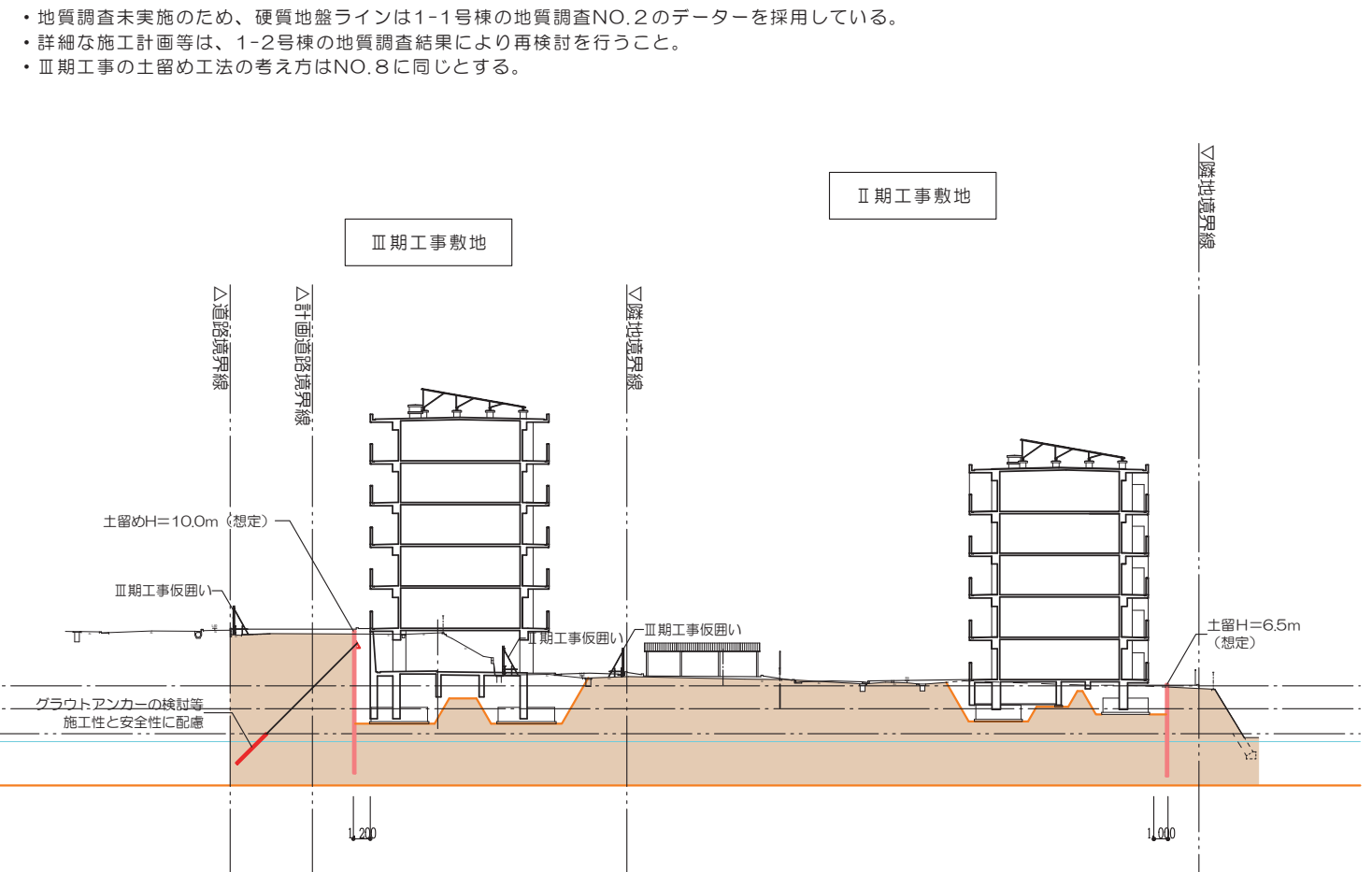
既存敷地横断面図



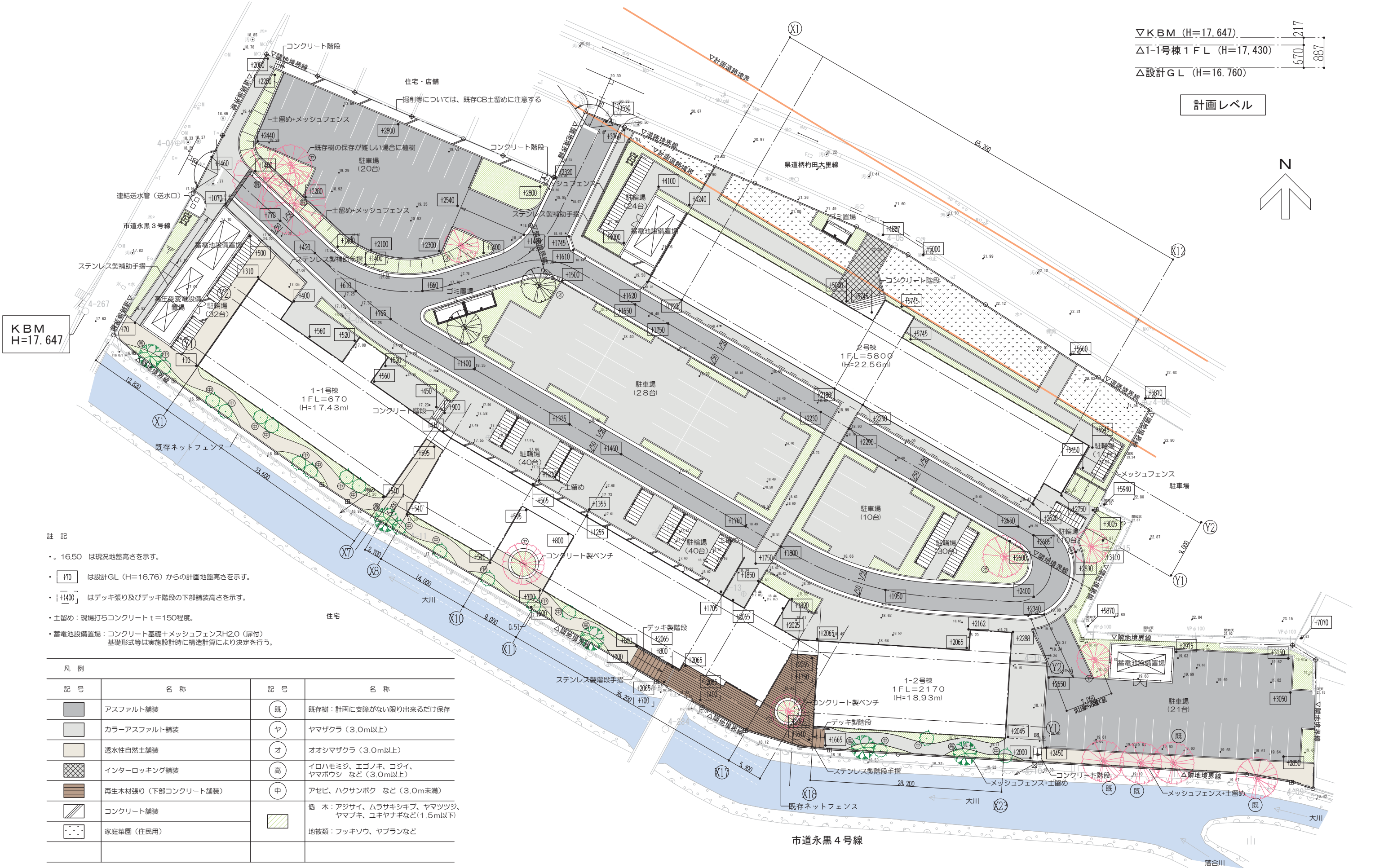
計画敷地横断面図

- ・地質調査未実施のため、硬質地盤ラインは1-1号棟の地質調査NO.2のデータを採用している。
- ・詳細な施工計画等は、1-2号棟の地質調査結果により再検討を行うこと。
- ・Ⅲ期工事の土留め工法の考え方はNO.8に同じとする。

敷地横断面図測点 No. 12







▽KBM (H=17,647)  
 △1-1号棟 1FL (H=17,430)  
 △設計GL (H=16,760)

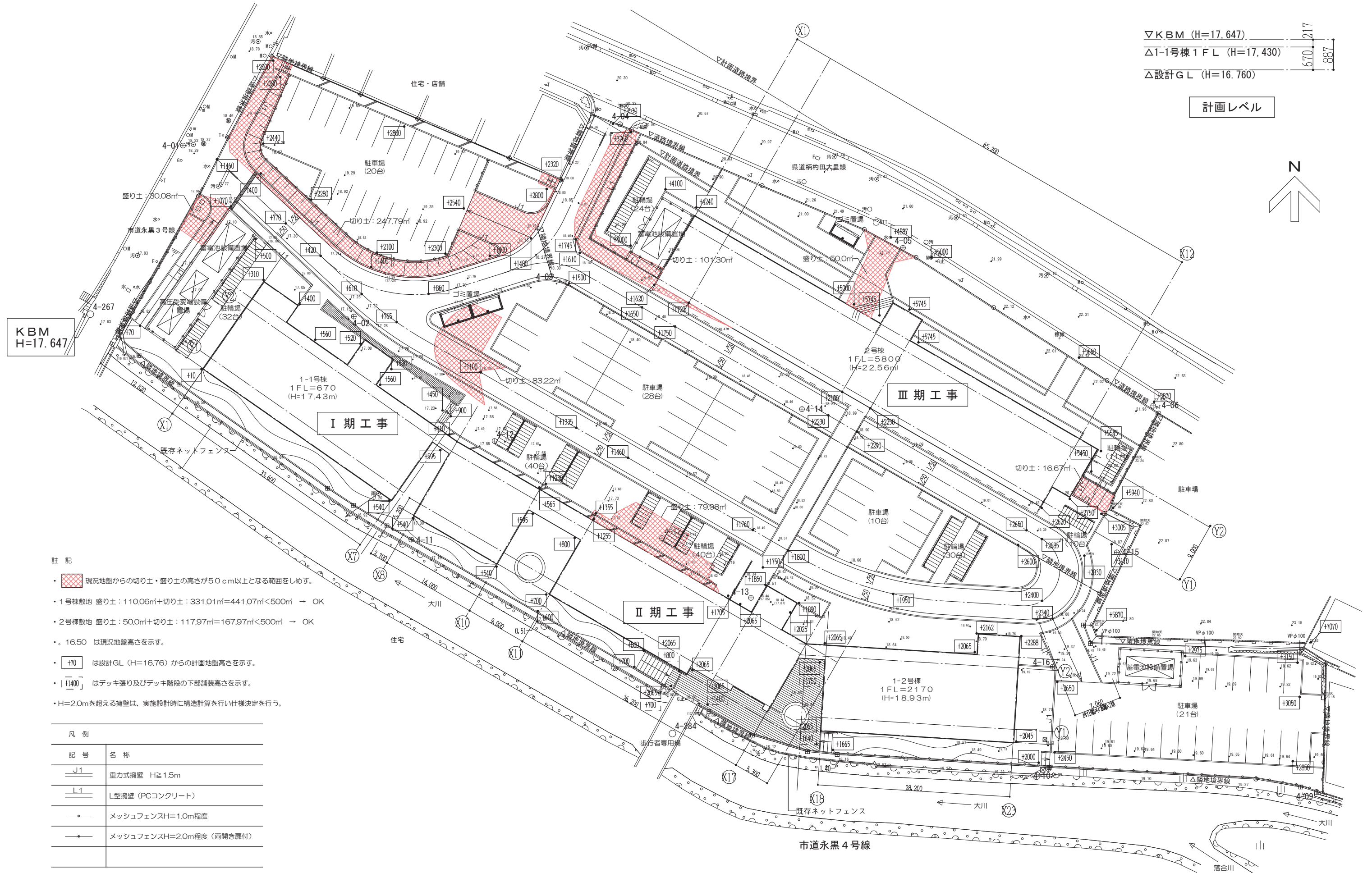
計画レベル

KBM  
H=17,647

- 註記
- ・ 16.50 は現況地盤高さを示す。
  - ・ [70] は設計GL (H=16,76) からの計画地盤高さを示す。
  - ・ [1400] はデッキ張り及びデッキ階段の下部舗装高さを示す。
  - ・ 土留め：現場打ちコンクリート t=150程度。
  - ・ 蓄電池設備置場：コンクリート基礎+メッシュフェンスH2.0 (扉付) 基礎形式等は実施設計時に構造計算により決定を行う。

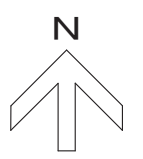
凡例	記号	名称	記号	名称
		アスファルト舗装	(既)	既存樹：計画に支障がない限り出来るだけ保存
		カラーアスファルト舗装	(ヤ)	ヤマザクラ (3.0m以上)
		透水性自然土舗装	(オ)	オオシマザクラ (3.0m以上)
		インターロッキング舗装	(高)	イロハモミジ、エゴノキ、コジイ、ヤマボウシ など (3.0m以上)
		再生木材張り (下部コンクリート舗装)	(中)	アセビ、ハクサンボク など (3.0m未満)
		コンクリート舗装		低木：アジサイ、ムラサキシキブ、ヤマツツジ、ヤマブキ、ユキヤナギなど (1.5m以下)
		家庭菜園 (住民用)		地被類：フッキソウ、ヤブランなど





▽KBM (H=17.647)  
 △1-1号棟 1FL (H=17.430)  
 △設計GL (H=16.760)

計画レベル



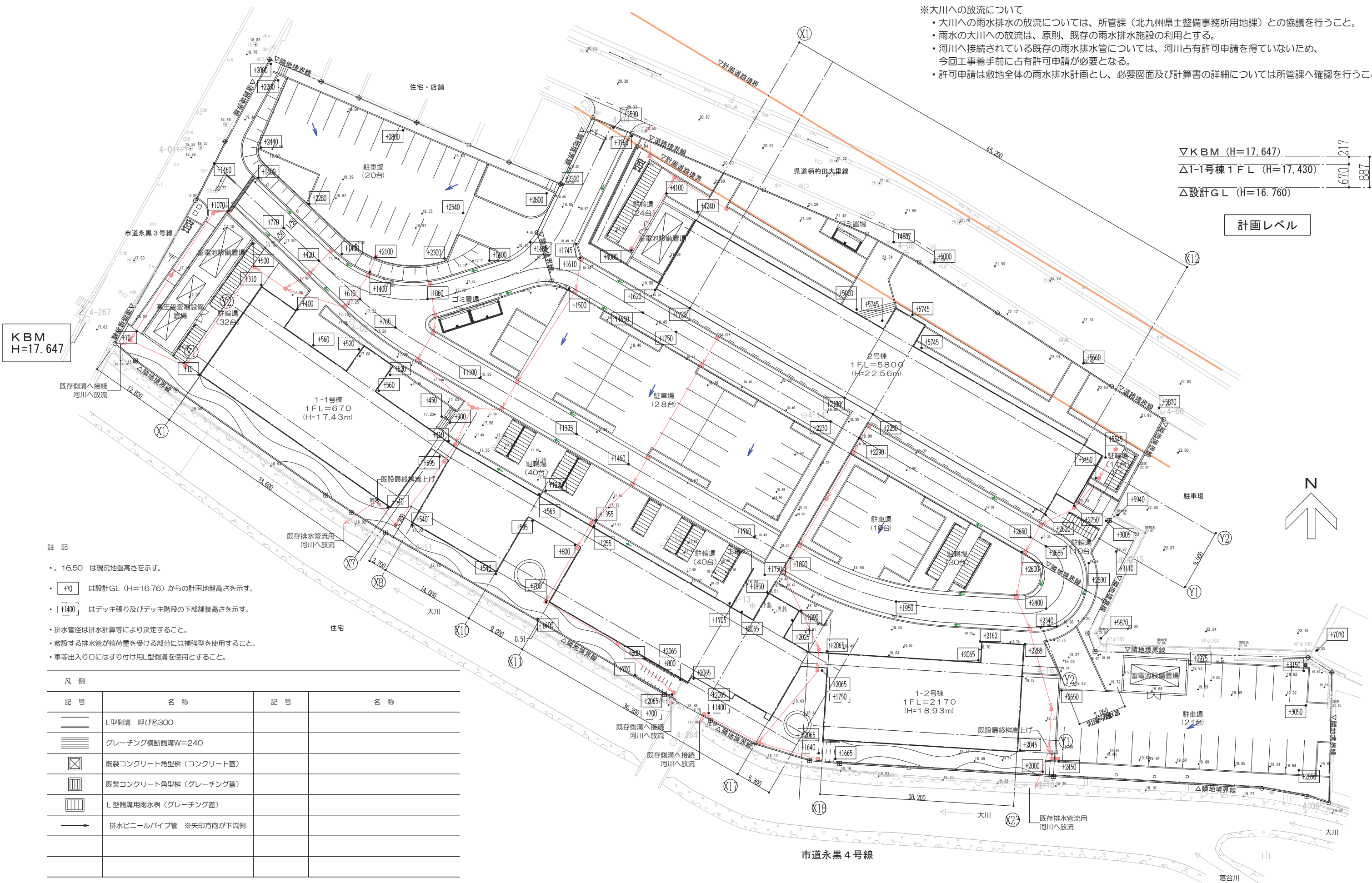
KBM  
H=17.647

- 註記
- ・ [Red hatched area] 現況地盤からの切り土・盛り土の高さが50cm以上となる範囲をしめす。
  - ・ 1号棟敷地 盛り土：110.06㎡+切り土：331.01㎡=441.07㎡<500㎡ → OK
  - ・ 2号棟敷地 盛り土：50.0㎡+切り土：117.97㎡=167.97㎡<500㎡ → OK
  - ・ 16.50 は現況地盤高さを示す。
  - ・ [70] は設計GL (H=16.76) からの計画地盤高さを示す。
  - ・ [1400] はデッキ張り及びデッキ階段の下部舗装高さを示す。
  - ・ H=2.0mを超える擁壁は、実施設計時に構造計算を行い仕様決定を行う。

凡例	
記号	名称
J1	重力式擁壁 H≧1.5m
L1	L型擁壁 (PCコンクリート)
—●—	メッシュフェンスH=1.0m程度
—●—	メッシュフェンスH=2.0m程度 (両開き扉付)



- ※大川への放流について
- ・大川への雨水排水の放流については、所管課（北九州県土整備事務所用地課）との協議を行うこと。
  - ・雨水の大川への放流は、原則、既存の雨水排水施設の利用とする。
  - ・河川へ接続されている既存の雨水排水管については、河川占有許可申請を得ていないため、今回工事着手前に占有許可申請が必要となる。
  - ・許可申請は敷地全体の雨水排水計画とし、必要図面及び計算書の詳細については所管課へ確認を行うこと。



▽KBM (H=17.647)  
 △I-1号棟 1FL (H=17.430)  
 △設計GL (H=16.760)

計画レベル

KBM  
H=17.647

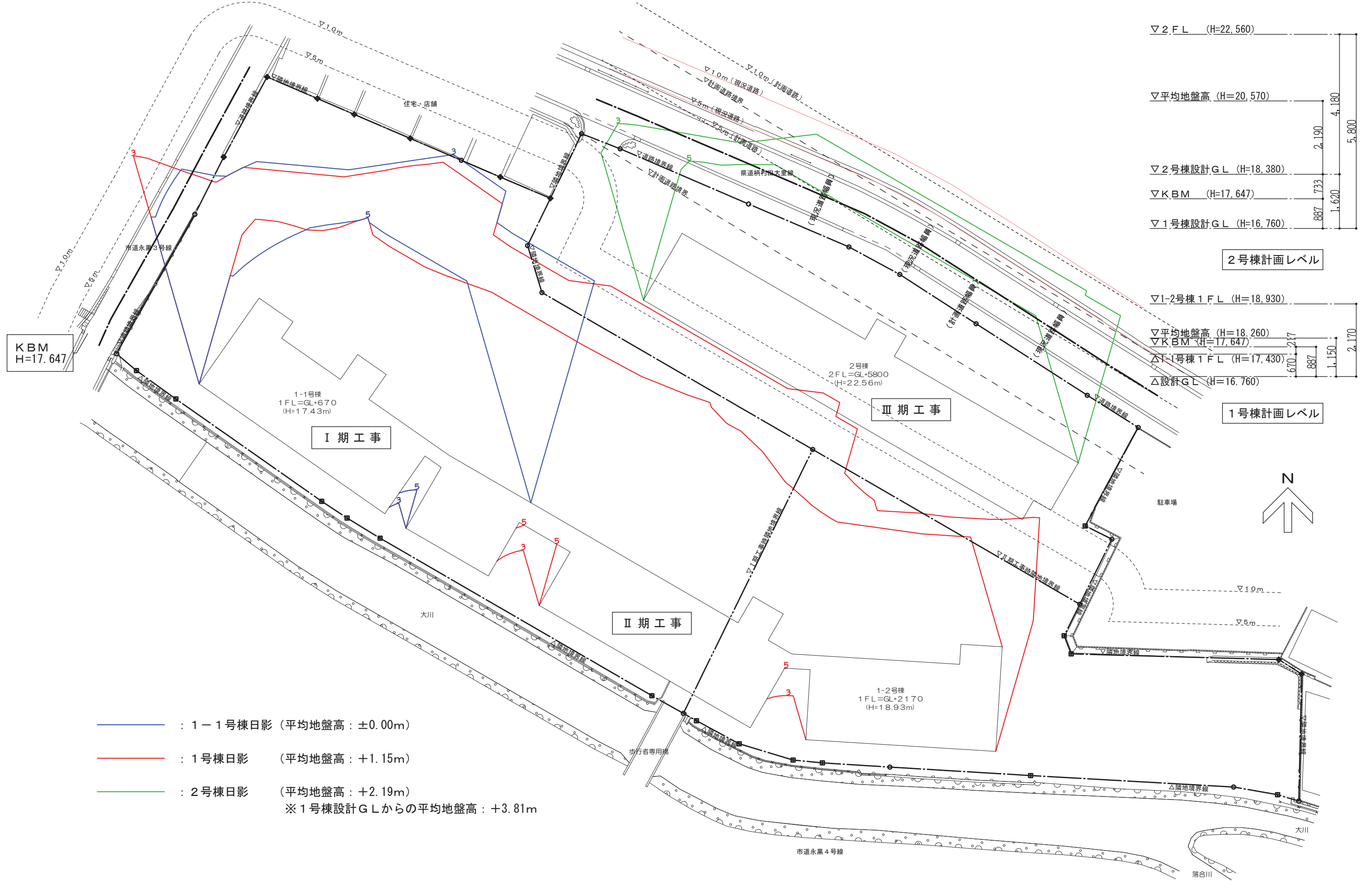
- 註記
- ・ 16.50 は現況地盤高さを示す。
  - ・ +70 は設計GL (H=16.76) からの計画地盤高さを示す。
  - ・ +1400 はデッキ張り及びデッキ階段の下部舗装高さを示す。
  - ・ 排水管径は排水計算等により決定すること。
  - ・ 敷設する排水管が軸荷重を受ける部分には補強型を使用すること。
  - ・ 車等出入り口にはすり付け用L型側溝を使用とすること。

凡例	記号	名称	記号	名称
		L型側溝 呼び名300		
		グレーチング横断側溝W=240		
		既製コンクリート角型柵 (コンクリート蓋)		
		既製コンクリート角型柵 (グレーチング蓋)		
		L型側溝用雨水柵 (グレーチング蓋)		
		排水ビニールパイプ ※矢印方向が下流側		

○ 法規チェック

建築基準法				消防法	
項目	法	令	適用	建物用途 (5) 項口 共同住宅	
主要用途			共同住宅(特殊建築物)	階数異なる棟が接続されており2方向避難が満たせないフロア → 階段+避難器具の設置(2方向避難のための避難器具は、それぞれ階段の対角線上の住戸に設置)	
耐火建築物	27条		共同住宅≥3階 → 耐火建築物	共用廊下の階段と住戸に挟まれている部分 → 端部が外気に開放されているため、開放廊下となる 以上により、2方向避難(避難器具含む)+開放型共同住宅として40号通知の適用が可能	
用途地域	48条		第一種住居地域 共同住宅 → OK	対象物条件	設置すべき消防用設備等
法22条地域	22条	109条8	屋根不燃	全部	誘導標識(誘導灯設置にて免除) → 40号通知により免除規定あり
容積・建蔽率	52・53条		容積率 200% 建蔽率 60%	延床面積 ≥ 150㎡	消火器具
接道	43条		幅員:約11.14m 接道:約93.18m(敷地1)	延床面積 ≥ 500㎡	自動火災報知設備 → 40号通知に基づく住戸用自火報設備+共用非常警報設備
			幅員:約6.69m 接道:約27.12m(敷地2)	延床面積 ≥ 700㎡	屋内消火栓設備(耐火 ≥ 2,100㎡ + 難燃材料以上 → 免除) → 40号通知により免除規定あり
高さ	56条		道 - 適用距離20m 斜線勾配1:1.25		動力消防ポンプ設備 → 40号通知により免除規定あり
			隣 - 立上り31m 斜線勾配1:1.25	延床面積 ≥ 1,000㎡	消防機関へ通報する火災報知設備 → 40号通知により免除規定あり
日影	56条2		建築物高さ > 10m 測定高さ 4m 日影時間(5h・3h)	2階以上収容人員≥30人	避難器具(3階以上の一般階) → 避難はしこ → 40号通知により免除規定あり
天井高		21条	居室 ≥ 2,100mm	無窓階、11階以上の部分	誘導灯
採光・換気	28条	20条	居室採光 ≥ 1/7、居室換気 ≥ 1/20	収容人員 ≥ 50人	非常警報設備(一般階) (自動火災報知設備設置にて免除) → 40号通知により免除規定あり
界壁	30条	22条3、114条	小屋裏、天井裏まで達する準耐火構造の壁、遮音構造の壁	階数 ≥ 7	連続送水管 → 3階以上の階(階段室、乗降口ビー近傍に設置) 50m ≤ 水平距離
避雷設備	33条	129条14~	建物高さ > 20m	収容人員 ≥ 50人	防火管理者の選任
排煙	35条	126条2	住戸区画面積 ≤ 200㎡ → 免除		
廊下		119条	両側居室 ≥ 1,600mm その他 ≥ 1,200mm	共用区画	開口部の制限、雨水管、設備系配管の貫通処理の有無
階段		23条~	直上階 > 200㎡ 幅、踊場長 ≥ 120cm 蹴上 ≤ 20cm 踏面 ≥ 24cm	共同住宅等に係わる特例	40号通知 → 共同住宅の区分による適用条件を確認
			踊場位置 ≤ 4m 屋外階段 幅 ≥ 90cm(避難用) 幅 ≥ 60cm(その他)		
直通階段		120条	歩行距離 ≤ 50m(内装制限による緩和 60m)	県条例	
		121条	2以上の直通階段 耐火構造 その階の居室床面積 > 200㎡	項目	
			重複距離 ≤ 25m(30m)	接道 20条	延床面積 > 1,000㎡ → 6m以上
避難階段		122条~	建築物 ≥ 5階 → 避難階段	接道 23条	倉庫、自動車庫 > 150㎡ → 出入口幅の数値、奥行2m以上の空道を道路に面して設ける
屋外への出口		125条	階段~屋外出口までの歩行距離 ≤ 50m	建築基準法関係規定	
			居室の各部分~屋外出口までの歩行距離 ≤ 100m	項目	内容
屋上広場等		126条	バルコニー等 ≥ 2階 → 1.1m以上の手摺壁、柵、金網	都市計画法	開発行為 市街化区域の敷地 ≥ 1,000㎡ 宅地造成工事規制区域 ※開発行為 → 地盤高さ50cm以上、範囲500㎡以上
非常照明		126条4~	階数 ≥ 3 延床面積 > 500㎡ → 共同住宅の住戸、開放通路は免除	バリアフリー新法	建築主の努力義務等 特定建築物(9.共同住宅)
非常出入口		126条6~	階数 ≥ 3 → S46.12.3住建発85による特例	建築基準法関係規定以外の規定	
敷地内の通路		128条	幅員 ≥ 1.5m	項目	内容
防火区画	36条	112条	面積区画 ≤ 1,500㎡ 床・壁:準耐火構造 建具:特定防火設備	道路法	歩道の切下げ等
			壁穴区画 階段・吹抜・ダクトスペース 床・壁:準耐火構造 建具:防火設備	福祉のまちづくり条例	特定まちづくり施設(18.共同住宅) ≥ 床面積2,000㎡
			避難階の直上階のみに通じる部分の区画免除(内装の下地不燃材料)		
			①EVホールの防雨スクリーン上部10cm以上の開口確保	省エネルギー法	住宅(新築) ≥ 床面積300㎡ → 届出対象物件
			②EVホール、EVホール~住戸間の共用廊下部の合計面積1/50以上の排煙確保	景観法及び都市景観条例	景観重点整備地区 → 区域外、大規模建築物等の届出対象 → 床面積 > 10,000㎡及び高さ > 31m
			上記2点を満たす → EVの壁穴区画は不要(1-1、1-2号棟)	文化財保護法	埋蔵文化財分布地 → 包蔵地外 ※G-motty「埋蔵文化財包蔵地マップ」による
			異種用途区画 共同住宅とその他(駐車場) 床・壁:準耐火構造(1時間)	土壌汚染対策法	形質変更範囲(50cmの切盛り範囲) ≥ 3,000㎡ ※ 原局による届出
無窓居室	35条2	128条3の2	居室面積 > 50㎡ → 居室排煙 ≥ 1/50	CASBEE北九州	延床面積 ≥ 2,000㎡ (北九州市所有建物 → 延床面積 ≥ 1,000㎡)
内装制限		128条4~	3階以上の床面積 > 300㎡ → 住戸 ≤ 200㎡区画の場合、住戸居室は免除		
			廊下、階段、通路 準不燃以上	河川法	河川占有許可 → フェンス、雨水排水管ともに未取得
			火気使用室 準不燃以上(主要構造部を耐火構造としたものは免除)		フェンスは扱わない、または団地敷地内に新設
					雨水排水管は最終的な形がまとまり次第協議
工作物	88・138条1		2mを超えるよう壁 → 工作物申請が必要(2号棟)		





▽2 F L (H=22.560)	4.180
▽平均地盤高 (H=20.570)	2.190
▽2号棟設計GL (H=18.380)	733
▽KBM (H=17.647)	1.620
▽1号棟設計GL (H=16.760)	887
	5.800

2号棟計画レベル

▽1-2号棟1 F L (H=18.930)	2.170
▽平均地盤高 (H=18.260)	217
▽KBM (H=17.647)	670
△1-1号棟1 F L (H=17.430)	887
△設計GL (H=16.760)	1.150
	4.170

1号棟計画レベル

- (Blue line) : 1-1号棟日影 (平均地盤高: ±0.00m)
- (Red line) : 1号棟日影 (平均地盤高: +1.15m)
- (Green line) : 2号棟日影 (平均地盤高: +2.19m)  
※ 1号棟設計GLからの平均地盤高: +3.81m